



社会福祉法人 御前崎厚生会  
 特別養護老人ホーム 灯光園  
 電話 (0548)63-3729(代表)  
 FAX 63-4131  
 灯光園デイサービスセンター  
 63-6002  
 灯光園在宅介護支援センター  
 63-5116  
 灯光園居宅介護支援事業所  
 63-5115



## 新緑の季節に

施設長 澤島久美子

緑が目目に鮮やかな季節となりました。お茶畑の若葉色を見ると嬉しくなりますね。

今年は灯光園の庭の紫蘭がたくさん咲きました。スイトピーも今が盛りです。ばらもつぼみをたくさんつけています。逆に毎年可憐な花を見せてくれたすずらんが今年は花をつけませんでした。植物は手をかければ答えてくれるものだと思っていますが、台風の後や、雨が降らない時期に、手当てをしなかった結果でしょう。残念です。

畑の草を取り、もうすぐさつま芋の苗を挿す時期です。今年もたくさん収穫できるかな。今日のことにくよくよしないで、未来に起こるいいことを考えることにしましょう。空はきれいに晴れているし、鳥がいい声でさえずっています。せっかくの気持ちのいい季節を、楽しみたいものです。

## 暮らしを支える看護

看護師 笹野井紀子

施設に入居するお年寄りの多くは、複数の慢性疾患や障害を抱えており、内服薬等の治療を継続して病状が安定しています。

私たち施設の看護師は入居者の方達の特性を踏まえ、これまでの暮らしを継続できるように、その方の一日の暮らしを知り、断片的ではなく、一日の視点で援助を考えます。これがユニット型施設の理念に基づいた考え方です。灯光園では介護士・看護師・リハビリ・歯科衛生士・栄養士・ケアマネジャー・相談員等多職種が入居者の暮らしを支えています。

灯光園には嘱託医である永尾先生はいらっしゃいますが、常勤の医師がいません。看護師である私たちが、入居の方達の健康管理や感染予防対策などに努めています。その中で、今年に入って印象に残る入居者の看取りがありました。

九十五歳 女性。重度の貧血がありました。次第に病状が進み心臓の機能が弱ってきました。ゼイゼイと喘鳴という症状が出て呼吸が苦しくなってきました。ご家族も入院は希望せず、嘱託医からの内服薬の治療を行いました。その方はどんなに身体がえらくても毎食きちんと食べたい方で、亡くなる前日の夜も柔らかくしたバナナを少しと飲み物を口にされていました。

終末期ケアと判断する基準は主に口からの食事が難しくなり、回復の見通しが困難な場合とされます。この方は終末期とされていて「食べないと死んじゃうからね」と一生懸命でしたので、多職種で話し合い経口摂取の目的を「苦痛とならない範囲で本人が楽しめるように」としました。

私は「食べないと死んじゃうからね……」の言葉に心がギューとしたのを覚えています。ほとんどの方は「長生きし過ぎた」「早くあの世からお呼びが

来ないかなあ」と言うことが多く、私も冗談で「じゃあ、お父さんに早く呼びに来てね。ってお願いしないとね。」なんて笑いますが、九十歳を過ぎても百歳を過ぎても心の底から早く死にたいと思う方はいないと思います。

苦しい呼吸状態の中で毎日を通りながら、ご自身の身体の状態をその方なりに受け入れた時「食べないと死んでしまう。」は本当に心から出てきた言葉だと思います。その言葉の通り起きたくないくらいつらい時期もありましたが、最後まで少しづつでも食べ、精一杯生き抜いた意思の強い方でした。私自身の死生観も刺激されました。

終末期を迎えるお年寄りの気持ち、家族の気持ち、多職種、医師と気持ちをそろえる役割も私たち看護師の仕事です。

この先も入居の方やご家族に「灯光園でよかったやあ」と最期まで「自分らしく」過ごしてもらえ施設でありたいと思っています。

グレイタイム



「箸とらば……」

箸とらば雨土（あめつち）

御代（みよ）の

御恵（おんめぐみ）

祖先や親の恩を忘るな  
いただきます

この言葉は私がデイサービス勤務の頃、あるご利用者さんがお昼ごはんをいただく前に食事前の祈りの言葉としていつも手を合わせていました。

感謝の気持ちを思い出させていただけるといつまでも忘れてはいけない教訓としてありがたいお言葉ですね。



## 暮らしのなかの交流

生活相談員 今村 新一

灯光園には8つのユニットがあります。それぞれ名前があり、岬1丁目・岬2丁目・岬3丁目・岬4丁目。港1丁目・港2丁目・港3丁目・港4丁目です。各ユニットに十人の入居者さんが生活しています。それぞれのユニットが一軒の家で、入居者どうしは家族のようです。隣のユニットは「隣の家」です。

朝、目覚めて起きて一日が始まります。朝ご飯を食べ終えるとテレビ前のソファに座り、大好きな時代劇や歌番組を楽しみ入居者さんがいます。外の景色を見に行く方や自分のお部屋で過ごす方もいます。朝の時間はゆっくりと流れ、皆さんそれぞれ違うことをして過ごしています。

十時を過ぎるころになるとタバタと感じる時間になります。リハビリに行き運動や機能

回復訓練を行う入居者さんがいます。ラジオ体操、パワーリハビリのマシンで体を動かします。空いた時間に縫物をしたり、計算ドリルや塗り絵をします。他のユニットの方とおしゃべりしながら楽しそうです。

またクラブ活動に参加する入居者さんもいます。書道クラブ、美術クラブ、お花クラブ、お料理クラブなど段々とクラブ活動が増えてきました。

リハビリやクラブは、他のユニットの入居者さんたちとの交流の場にもなっています。

クラブがない日でも「今日はお話しをしに来たよ。」と言いながらユニットまで椅子を走らせて来る入居者さんもいます。「隣の家のおばあさんとおしゃべり」という感じでしょうか。

「オセロをやりに来たよ。」と息子さんも一緒に遊びに来てくれることもあります。

灯光園のなかだけではなく、地域の方との交流が広がっているかと思っています。

## 令和元年度苦情

7件の苦情がありました。皆様からいただいた苦情をアドバースと受け止めて今後に活かします。

①デイサービス利用者より。入浴の時に職員が下着の臭いを嗅ぎ鼻をつまむしぐさをしました。

↓職員はそのようなつもりではなかったが、誤解させる行為であり説明して謝罪した。

②デイサービス利用者ご家族より荷物の間違いが2度続いた。

↓注意が足りなかったことを謝罪し、今後はないように気をつける旨説明した。

③特養入居者ご家族から「職員の態度や物の言い方が良くない。愚痴のようなことばかり言う」と苦情をいただきました。

↓職員に伝え、ご家族と良い関係を築くため努力しましょう

と話し合う。

④特養入居者ご家族より、看護師の言葉遣いや上から目線の態度が不快だった。

↓職員に言葉遣いや態度について注意し、お詫びする。接遇の研修が必要かと思われる。

⑤短期入所の利用者のバルンが抜けてしまう。

↓お詫びをし、受診の後固定の方法を検討する。

⑥短期入所のご家族より、入所中に外出した件をご家族に伝えなかったので、伝えてほしい。

↓今後は必ず連絡することにする旨説明してお詫びをする。

⑦特養入居者ご家族より、事故があり骨折したが、園の責任者から説明や謝罪の言葉がない。

↓施設長が謝罪し、原因などについて説明した。

### 試練

理事長 松下 秀夫

日課であるラジオ体操、ウォーキングを終え、パソコンを前にこの原稿に取り組んでいる。庭に目を向ければ藤の花が満開、柏の葉や柿の葉が萌黄色となりまさに新緑の季節である。しかし、人間社会では新型コロナウイルス感染予防のため、季節の変わり目も感じない中で新年度がスタートした。

灯光園では集団感染防止の観点から、感染症対策委員会を中心にできる限りの防止策を行っている。特に、市内で感染者が報告されてから、入所者への面会禁止やデイサービスの利用の制限などお願いしてきた。

周りを見てもお店は休業、人通りもなく、もともと静かなところにも人声さえ聞こえてこない。皆、新型コロナウイルスの終息を願いじっと耐えているのだろうか。特に子供たちは臨時休校も長期化しつつどのように過ごしているのだろうか。

我が家では十日程孫2人を預かった。息子からは「勉強は午前中、剣道、ゲーム2時間限度」の3条件を提示された。結果は、剣道以外は？である。

たぶん多くの家庭では「勉強しなさい、いつまでゲームやっているの」「もうちょつとで終わるから、後で勉強やるよ」大人と子供の駆け引きが行われたのだろう。

臨時休校再延長の中「緊急事態宣言」が解除された。これにより、施設利用の制限解除や子供たちの学校再開も前倒しとなった。久しぶりの学校も適応能力高い子供たち心配はないだろう。

先行きの見えない感染拡大に備えた「新しい生活様式」の実践が示されているが、「好き嫌いなく何でも食べ、適度な運動により丈夫な体をつくる」免疫力をつけることが最大の感染予防対策と感じている。

### ボランティア活動

灯光園デイサービス

〇三月

川口 節子様

(絵手紙)

一回

ご寄附  
ありがとうございます。

御前崎地区民生児童委員協議会様  
手作りマスクをいただきました。



入居者家族の皆様にも手作りマスク等を頂きました。ありがとうございます。

### 編集後記

令和2年6月号は、みさき第100号となりました。23年前の平成9年7月15日発行の創刊号表紙は、東光寺の長藤の前で撮ったデイサービス利用の方がたと当時の若々しい職員の写真の写真でした。当時の小栗喜一理事長に書いていただいた題字と絵とともに、「この機関誌が一方方向ではなく、福祉の仕事を進めていくうえで、皆様との心の交流のかけ橋となることを祈っております」との文章が載っていました。当時の灯光園職員の思いを大切に引き継いでいきたいと思えます。



今年はスイトピーが満開でした